

国語（読解）解答例

《一》賢者の贈り物①

一 要約の解答例

質素なアパートの一室に若い夫婦が住んでいた。夫、ジムの収入が減ってしまい、夫婦は貧しかったが、妻、デラは夫を深く愛していた。明日はクリスマス。大切な夫にプレゼントを買うために、デラはこれまでコツコツとお金を貯めてきたが、全部で一ドル八十七セントしかない。プレゼントを買うには少なすぎる。悲しい思いに沈んでいたデラは、ふとあることを思いつき、涙をぬぐい鏡の前に立った。そして自分の長い髪を下ろして眺めた。

二

やおや	ふろうしや	きびん	こぜに
八百屋	浮浪者	機敏	小銭
ものう	ひつぜつ	ほほえ	いっそう
物憂げ	筆舌	微笑み	一掃
つつ	むりやり	はんえい	はお
慎ましい	無理矢理	繁栄	羽織る
へい	はあく	えとく	た
塀	把握	会得	垂らす
うつ	ちぢ	しよゆうぶつ	すがたみ
映る	縮める	所有物	姿見

《二》賢者の贈り物②

一 要約の解答例

ジェームズ・ディリンガム・ヤング家には、誇るべきものが二つあった。ひとつは祖父から父へ、父からジムへと譲り受けられた金時計である。もうひとつはデラの宝石や宝物より美しい長い髪である。デラは自分の美しい髪を二十ドルで売り、そのお金でジムへの贈り物にプラチナの時計鎖を買った。そして美しい髪を失った自分を夫がどう思うか心配しながら、短くなった髪にヘアアイロンでカールをつけ、何とか整えようとした。

《三》賢者の贈り物③

一 要約の解答例

髪を切ったデラは祈る思いでジムの帰りを待った。帰ってきたジムが奇妙な表情で立ちすくむのを見て、デラは髪を売ってジムへのプレゼントを買ったことを話した。ジムはデラの髪型に驚いたのではなかった。長い髪に飾るために、金時計を売って美しい櫛を買ったのだ。二人は最も素晴らしい宝物を互いのために台無しにしてしまった。しかし、彼らこそ贈り物をやりとりするすべての人の中で最高の賢者ではないだろうか。

二 説明の解答例

二人とも愛する人に最高の贈り物をするために、自分が持っている最も価値のあるものを売ってしまった。その贈り物は結果的には役に立たない贈り物になってしまったが、お互いがいかに大切な存在であるかを確認することができた。最高の贈り物とは最高の真心と愛情を相手に贈ることだということを、二人の行いは示している。

《四》学問ノススメ①

一 解答例

学ばない人には知恵が無く、知恵がない人は愚かな人である。

二 要約の解答例

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」といえる。全ての人にとって、生まれながらの貴賤や貧富の差はない。しかし、世の中にはかしこい人やおろかな人、貧しい人や豊かな人がいる。その相違は学ぶ人と学ばない人の差によって生じる。心を使い神経を使う仕事は難しく、肉体労働は難しくはない。学問に励み、物事をよく知る人は尊敬され豊かになり、無学の人は貧しくなり身分が低くなる。

《五》学問ノススメ②

一 要約の解答例

全ての人は実学を学ぶべきである。西洋の学問は翻訳書を使い、語学の才能のある人には外国語を学ばせ、どの分野も物事の道理を求めて、今日の社会にとって必要な学問をするべきである。漢学や和歌などの教養としての学問も興味深いものであるが、現実の社会に必要な知識だとはいえない。実学とは、読み書き計算など生活に必要な学問だけでなく、さらに進んで地理学、歴史学、経済学、修身学など、世の中全体を考える学問のことである。

《六》学問ノススメ③

一 要約の解答例

人はみな自由であるが、自由とわがままをはき違えてはならない。わがままとは、他人に迷惑をかけることである。たとえ自分のお金でも放蕩するのは世間の風俗を乱すものである。これは国家も同じである。日本はこれまで鎖国をして外国と国交がなかったが、井の中の蛙ではない。天の教えや人の道理に従って、対等に協力し学びあう関係を築くべきである。相手国を恐れたり侮ったりせず、自由で独立した国家でなければならぬ。

ばんぶつ	しゅい	ありさま	ふうき
万物	趣意	有様	富貴
ひんぷ	そうい	ほんやくしよ	しんだい
貧富	相違	翻訳書	身代
そろばん	けんじん	ぐじん	せたい
算盤	賢人	愚人	世帯
ほうこうにん	しば	かんよう	つい
奉公人	縛る	肝要	費やす
にちりん	いこう	ちじよく	す
日輪	威光	恥辱	棄てる

三 解答例

- ①つまり、賢い人と愚かな人の差は学問を学んだか、学ばなかったかによって生じるのである。
- ②だから、今はそのような実益のない学問は後回しにして、何よりも社会で役立つ実学を学ぶことに努めなければならない。
- ③つまりそのような自分らしきとは、天の道理に基づき人の情に従って、他人に迷惑をかけずに自分のやりたいことをやり遂げることである。自由とわがままのちがいは、人に迷惑をかけるか、かけないかの差である。

《七》草枕①

一 要約の解答例

山路を登りながら考えた。知恵が先走ると角が立つ。情につられると流される。意地を通すとやりにくい。本当に人の世は住みにくい。生きにくくなると楽なところへ行きたくなるが、どこに行っても同じだと悟ったときに詩や絵などの芸術が生まれる。芸術は人の心を豊かにする。世の中の明暗は、表と裏の関係であり、日の当たるところには必ず影がさす。喜びが深いと悩みもいっそう深く、楽しみが大きいと苦しみも大きい。

二 解答例

- ①知恵が先走ると角が立つ。情につられると流される。意地を通すとやりにくい。本当に人の世は住みにくい。
- ②二十年生きて、生きがいのある世の中だということがわかった。二十五歳になって、世の中の明暗は表と裏の関係であり、日の当たるところには必ず影がさすと悟った。三十歳の今はこう思っている。喜びが深いときには悩みもいっそう深く、楽しみが大きいほど苦しみも大きい。

《八》草枕②

一 解答例

①ここまで考えた時に、私の右足は突然、不安定で角ばった石を踏みはずした。平衡を保つためにさっと前に出した左足でバランスを取り直すと同時に、縦横一メートルほどの岩の上にならぶどよい具合に腰をつくことができた。肩にかけた絵の具箱がわきの下から飛び出しただけで、幸い何事も無かった。

②春は眠くなる。猫はネズミを捕ることを忘れ、人間は借金があることを忘れる。時には我を忘れてぐっすり眠り込んでしまう。遠くの菜の花が眼に入りやつと目が覚める。

二 解答例

雲雀が鳴く声にはつと目が覚め、自分がどこに居て何を考えていたのかを思い出す。

《九》日本の伝説①

一 要約解答例

日本は伝説が多い国だが、次第に語り手が少なくなってきた。それを惜しんで、私はこの本を書いた。昔話は動物のように日本国中に散らばっていくが、伝説は植物のように土地に根を生やして成長していく。歴史はそのような伝説を利用して整理されていく。歴史が整頓されていくと、伝説の野山は狭くなるが、しかしそれもまだほんの少しであり、伝説のまま残されているものの方が多い。子どもたちは面白い話だけを読んで楽しんでほしい。

二 解答例

①昔話は自由に移動する動物のように、日本の中のさまざまな地方に伝わり広がっていくから。
②伝説は根の生えた植物のように、ある土地に根付いてそこで常に成長していくから。

《十》日本の伝説②

一 要約解答例

昔の人々は、水を確保するために川や池に出かけたり、笕を架けて水を引いたりしていたので、離れた所に住むことができなかった。地方を行脚していた空也上人は水を見つけたことが上手で、多くの村々で良い泉を見つけては土地の人々に念仏の教えとともに伝えた。土地の人々は念仏の合唱とともに水の恵みと念仏池の不思議を思い、そこに神様を祭った。泉周辺と念仏の信仰が結びつくのはそのためかもしれない。

《十一》日本の伝説③

一 要約解答例

伝説によると、空也上人より多くの泉を見つけた御大師様という人がいるが、多くの土地で御大師を弘法大師のことだと思われている。実際の弘法大師は遠方を旅することはできなかったはずだが、全国各地に弘法大師が残した泉や不思議話が残っている。日本中を歩きまわり、どこでも同じような不思議を残していくことを、人々は、神様だと思わず、誰か昔の偉い人にちがいない、それは弘法大師であると想像したのではないだろうか。

二 解答例

弘法大師は中国で修行をした後、高野山を開き、書物を書き、多くの仕事を残したが、日本中を遠方まで旅することはできなかったはずである。しかし、全国各地に弘法大師が残した泉や不思議話が残っている。日本中を歩きまわり、どこでも同じような不思議を残していくことを、人々は、神様だと思わず、誰か昔の偉い人にちがいない、それは弘法大師であると想像し、それが伝説として言い伝えられたのではないかと考えられる。

《十二》檸檬①

一 要約解答例

私は、えたいの知れない不吉な感情をもてあましながら、街から街へとさまよい歩いていた。5
 毎日深酒し、不健康ですさんだ生活や借金に加え、漠然とした焦燥や嫌悪感を抱え、自分が住んでいる町、京都から逃げ出して、誰一人知らないところへ行きたいと思っていた。憂鬱な気持ちでさまよい歩くうちに、ある果物屋の前で足を止めた。その店の周囲は妙に暗く、低く下がったひさしの下には電燈の光がそこだけ絢爛と美しい眺めを照らし出していた。

《十三》 檸檬②

一 約解答例

私はその店で檸檬を一つ買った。檸檬の色や形や重み、感触や匂いに元気が蘇ってきた。そして、以前は好きだったが今では重苦しく感じる丸善に入ってみる気になった。丸善で画集をバラバラとめくるが気持ちは浮かない。何冊も抜き出しては重ねるうちにある事がひらめいた。画集を何冊も積み重ね、その上に檸檬を置いてそのまま店を出るのだ。黄金色の爆弾が美術の棚を中心に大爆発をしたらという想像に、私の気持ちはくすぐられた。

二

かたまり	せんたくもの	にお	しよっかく
塊	洗濯物	臭い	触覚
きゆうかく	さっかく	こくめい	しんぼう
嗅覚	錯覚	克明	辛抱
だがし	おもむき	ほこり	ろこつ
駄菓子	趣	埃	露骨
がらす	たな	あつかん	いろど
硝子	棚	悪漢	彩る

《十四》 最後の葉①

一

ちんたいりょう	あいしょう	しんりやく	おじょうさん
賃貸料	愛称	侵略	お嬢さん
そうぎ	さしえ	ゆうび	にぎる
葬儀	挿絵	優美	握る

二 解答例

肺炎という病魔は礼儀を心得ているとはいえませんでした。凶暴で極悪な悪漢が、温暖なカリフォルニアで育ち、弱っている小柄な女性に襲いかかるといふのはフェアプレイとは言えません。しかし、肺炎の病魔はジョンジーに襲いかかりました。

三 解答例

患者が生きる希望を失い、自分の葬式のことを考え始めたら、せつかく薬を飲んででも効き目が

半減してしまう。

四 解答例

ジョンジーは生きる気力を失い、窓の外に見えるつたの葉っぱの最後の一枚が散るときに、自分も死ぬのだと思っているから。

五 要約解答例

スーとジョンジーは、グリニッチ・ヴィレッジの屋根裏部屋に共同のアトリエを借りていた。十一月になり冷気とともに肺炎が流行すると、カリフォルニア出身のジョンジーは肺炎に罹り、ベッドから起き上がれなくなった。生きる気力をなくしたジョンジーは、窓の外に残ったつたの葉を数えながら、最後の一枚が散るときに自分も死ぬのだと言った。スーはジョンジーを励まして眠るようにといい、年老いたベーアマンさんのところへ行った。

《十五》最後の一枚②

靴	部屋	肺炎	危険
けっさく	こうこく	やとう	なんじゃく
傑作	広告	雇う	軟弱
げんそう	ごどく	こがら	むじひ
幻想	孤独	小柄	無慈悲
ふるえる	ろうか	かんびょう	ちる
震える	廊下	看病	散る
くつ	へや	はいえん	きけん

二 解答例

四十年間、絵を描き続けてきたが、一枚も傑作は描けなかった。

三 解答例

最後の一枚が散ると自分も死ぬと思っていたが散らずに残っているため、死にたいと思っはいけないということに気づいた。ワインを入れたミルクで体を温め、スープで栄養を取って元気になろうと思った。そして、鏡で自分の顔色を確認し、ベッドに起き上がってスーが料理をするところを見たくなった。ジョンジーは生きる気力を取り戻し、回復するための努力をはじめたのだ。

四 解答例

肺炎を治し元気になって、美しいナポリ湾の絵を描くためにイタリアに行きたいという明るい希望がこもっている。

五 感想：自由記述